

JET 体験論文集

2023-2024



| | | | |
|-------------------------------|----|-----------------------------|----|
| 滋賀県国際交流員 Prefectural CIR | | 甲賀市 ALT Koka City ALTs | |
| Harry Broughton | 1 | Cameron Stuart Hart | 16 |
| | | Deven Mahanti | 17 |
| 大津市国際交流員 Otsu City CIR | | Joseph Timbs | 18 |
| Gavin Wurm | 3 | Kelly Reid | 19 |
| | | Shelby Keiko Davis | 20 |
| 県立学校 ALT Prefectural ALTs | | Sophie Nevel | 21 |
| Alexander Hamilton | 5 | | |
| Ann Cooper | 6 | 米原市 ALT Maibara City ALTs | |
| Cheyenne Price | 7 | Anna Jones | 22 |
| Kyle O'Connor | 8 | Christina Madera | 23 |
| | | Kaleb Thompson | 24 |
| 東近江市 ALT Higashiomi City ALTs | | Kassandra Sauser | 25 |
| Arvin Javier Benamije | 9 | Laura Steavenson | 26 |
| Christian De Dios Libunao | 10 | | |
| Czarah Jane J. Miranda | 11 | 高島市 ALT Takashima City ALTs | |
| Jack Long | 12 | | 27 |
| Kayla Clifford | 13 | Na-Kaydia Webb | 28 |
| Raisa Dominique Garcia Perez | 14 | | |
| Rene Vazquez | 15 | | |

「一期一会」

ハリー・ブロートン

滋賀県総合企画部 国際課 勤務

イギリス レスター出身

1年目国際交流員



あいさつ

大学の先輩に ALT としての仕事が貴重な経験だと聞いて、大学 4 年生のとき、JET プログラムに応募しようと決めました。大阪大学の留学から帰ってきたばかりの私は、日本で働いてみたいと思いました。大学では CIR の内定をもらった先輩はいませんでした。国際交流や自治体の仕事へ関心を持っていたので、結局 CIR の職種を第一希望として選びました。ロンドンの日本大使館で行われた面接の結果、滋賀県の国際交流員として採用されました。

ニンテンドーをきっかけに、子どもの頃からずっと日本の文化に魅力を感じています。大学で日本学を専攻にして、卒業論文も英国日本研究協会(BAJS)の大賞を取りました。

この1年間、滋賀県のCIRとして幅広く活躍することができました。特に印象的に残ったのは、去年 9 月のミシガン州知事来県への対応でした。滋賀県・ミシガン州姉妹県州交流に少しでも貢献できたと思います。

翻訳・通訳

ミシガン州知事の来県対応以外には、CIR の職務の一つである翻訳・通訳を色々やってきました。県の公文書を英語に訳すことや、国内外の来客の通訳をすることはプレッシャーを感じますが大変有意義な仕事です。最初は難しく感じることもありましたが、経験を積んで成長することができたと思います。

出前講座

県内の学校での出前講座も大事な仕事の一つです。1年目の間はおよそ30回実施しました。小学校が特に多いですが、高校からの依頼もあります。イギリスの文化を日本語で児童生徒に紹介します。例えば、日本もイギリスも島国であるにもかかわらず、イギリスでは日本ほど魚を食べないという食文化の違いを説明します。また、日本とイギリスの学校の違いといった児童生徒にとって身近な話をする事で国際理解が深まると思います。さらに、高校の場合は多文化共生の観点から見たイギリスの社会について話します。英語圏の国のひとつであるイギリスの文化に興味を持ってもらうことは今後の英語学習への態度につながると思います。英語圏の CIR としてそれは非常に意義深いことだと考えています。

取りまとめ団体アドバイザー

CIR 取りまとめ団体アドバイザー(CIR-PA)として、ALT-PAと協力して県内のJET参加者のサポートに積極的に取り組んでいます。去年のALT指導力等向上研修では、日本のビジネスマナーについて発表しました。ALTから好評をいただき、誠に感謝しています。現在は、今年の新規JET参加者向けのオリエンテーションの計画に取り組んでいます。

その他

中学生英語弁論大会や滋賀県国際協会(SIA)の次世代人材育成連続セミナーに参加させていただきました。県民の皆さんと直接交流できたことはとても重要だと思います。県内の中学生のスピーチを聞くことができたのは、光栄に思いました。皆さん上手に英語で発表されていました。外国語弁論大会は私の国にはあまりないので、勉強になりました。また、国際協会のセミナーに参加したとき、県内の教職員や、留学生などの話を聞いて、滋賀県について色々知ることができました。また、消防職員向けの研修に参加させていただいたのもよい経験です。

最後のことば

残念ながら、この1年間はもう最後になります。日本語の「一期一会」ということわざは私のJET 体験をよく表すと感じています。来たばかりのとき、国際協会の情報誌 SIA(シーあ)に自己紹介の記事を投稿して、そこにはこの機会を「一期一会」として努めていきたいと書きました。比較的に短い間で経験したこと、出会った人も今後の生活にすごく大事になると思います。滋賀県庁で身につけたスキルはイギリスの就職に必ず役に立ち、CIRとしての経験も一生忘れられないものになると思います。

国際交流員2年目を迎えて

ガビン・ワーム

滋賀県大津市 MICE 推進室 勤務

アメリカ テキサス州出身

2年目国際交流員



【大津に来るまで】

日本で日本語を使える仕事がしたい。大学三年生の時、専攻を日本語に変更すると共にそう決意しました。その後、大学の授業でJETプログラムの国際交流員の仕事について初めて知り、これは自分がやりたいことだと直感しました。国際交流員になることを目標に日本語を2年間猛勉強してからJETに応募し、大学を卒業して二日後に採用が決まりました。そして2022年の10月に来日し、現在は大津市役所で勤務をしています。

【翻訳・通訳】

多くの国際交流員と同様に私の主な業務は翻訳と通訳です。翻訳の依頼は様々で、普段は大津市在住の外国人のための庁内の行政手続や観光施設の案内情報の英訳が主ですが、姉妹都市とのやり取りや市長の親書等の幅広い内容にも対応しています。仕事をしているときは、常に何らかの翻訳に取り組んでいます。

通訳は私にとって国際交流員の様々な業務の中で一番難しいです。これまで経験した通訳は主に市民のための通訳とイベント時の通訳の二つの種類があります。市民のための通訳は外国人が大津市に転入した時の住民登録や国保・年金の窓口でのサポート、子どもの保育園や幼稚園の入学説明会での対応等が一般的です。難しい仕事ではありますが、人の役に立つ、やり甲斐を感じる仕事でもあります。

イベント通訳は市民のための通訳に比べて年に数回しか機会はないのですが、その機会が来たら重要な役割を任されることが多いです。これまでは、挨拶やスピーチの逐次通訳、関係者の質疑応答や歓談等の通訳を行ってきました。



使節団受入時の通訳

【姉妹都市との交流】

大津市の国際交流員にとって姉妹都市との交流は大事な業務です。大津市は様々な都市と繋がっていて、アメリカ、ドイツ、スイス、中国、韓国にある合計5つの都市と姉妹友好都市の提携を結んでいます。コロナ禍の影響で交流が困難な時期が数年間続いたのですが、水際対策の緩和等のおかげでよ

うやく 2022 年に姉妹都市との対面交流を再開することができました。

姉妹都市との交流を再開してから、ドイツ、韓国、アメリカの姉妹都市からの訪問団を受け入れてきました。大津市を訪れる際は、市の国際交流員として、訪問に関連する書類の翻訳、市内の観光施設の案内、市長との表敬訪問時の通訳などを任せられます。

【国際文化理解教室】

国際文化理解教室は大津市の国際交流員が行う業務の中で、市民レベルでの異文化交流を促進することができる重要な仕事です。教室の目的は英語を教えるのではなく文化を教えることで、保育園から高校までに行って異文化交流の講座を行う事業です。最初の頃、子どもとの接し方がほぼわからなかった私は国際理解教室にどう臨めばいいのかを悩みましたが、経験を積むにつれて、だんだん楽しめるようになりました。現在は主に幼稚園や保育園でプレゼンやクイズを通してアメリカの学校や休日等について教えています。



幼稚園での国際文化理解教室



フェイスブックの取材

【SNS/観光 PR】

海外向けの SNS 活動にも取り組んでいます。昨年 1 月より、市の英語版フェイスブック「Lake Capital Otsu」を正式に再開しました。このアカウントはもともと私の前任者が始めた企画で、コロナ禍の影響もあって数年間投稿が止まっていたのですが、現在は月に 1 回のペースで市の観光施設などを紹介しています。

【終わりに】

JET プログラムに選ばれて日本に来てから、もうすぐ 2 年が経ちます。この 2 年間、様々な経験ができて毎日が勉強の日々でした。今後も大津市の国際交流員として、国際交流や多文化共生の促進に努めたいと思います。

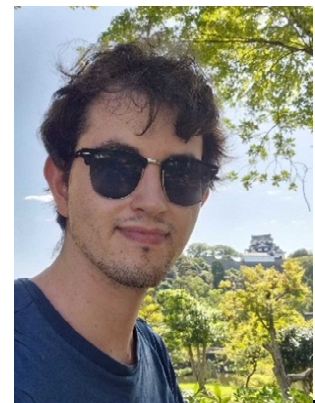
How Time Flies

Alexander Hamilton, Shiga Prefectural Zeze High School

A long time ago, when I was an eleven- or twelve-year-old just finding out about Japan through manga and video games, someone raised the idea that one day I could go to Japan to teach English. I don't remember who it was, and at the time becoming a teacher was the furthest thing from my mind, but the idea lodged itself somewhere in my mind and stayed there. More than a decade later, having worked an IT job for several years, the idea randomly resurfaced. Almost on a whim, I decided that I would apply to the JET Programme.

I am now approaching the end of my first year in Shiga. Originally, the plan was to stay for two years and then head home. That's plenty of time, right? Surely I could experience everything the country had to offer in that time, I thought. But a year has gone by in the blink of an eye, and one year will turn into two before I know it. I've realised that two years won't be nearly enough to truly experience Japan.

Although this year has flown by, it has been full of incredible experiences that I would not have imagined having a few years ago. From playing with my school's guitar club, to seeing the sunset from the Tokyo Skytree, to experiencing festivals in various parts of Shiga, I have fit more into one year than I ever expected to. I hope that my second year will bring me even more incredible experiences and memories.



Topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

あっという間の一年

アレクサンダー・ハミルトン(滋賀県立膳所高等学校)

ずっと昔、私がまだ11歳か12歳で、マンガやビデオゲームを通じて日本について知り始めた頃、誰かがいつか日本で英語を教えることができるかもしれないと言いました。誰が言ったのかは覚えていませんが、その時は教師になることなど全く考えていませんでした。しかし、その考えは私の心のどこかに宿り続けました。それから10年以上経ち、数年間ITの仕事をしていたとき、その考えがふと浮かび上がってきました。そしてほとんど衝動的に、JETプログラムに応募しようと決めました。

今、私は滋賀での最初の年の終わりに近づいています。元々の計画では、2年間滞在してから帰国する予定でした。それだけの時間があれば十分ですね。この国のすべてをその期間で体験できるだろうと考えていました。しかし、一年が瞬く間に過ぎ去り、もう一年が経つのもすぐだと気づきました。二年間では本当に日本を体験するには全く足りないと感じました。

この一年はあっという間に過ぎましたが、数年前には想像もしなかった素晴らしい経験で満ちていました。学校のギター班での活動、東京スカイツリーからの夕日鑑賞、滋賀の様々な地域での祭りの体験など、一年で予想以上のことを経験しました。二年目もさらに素晴らしい経験と思い出がもたらされることを期待しています。

A Unicorn's Revenge Challenge

Ann Cooper, Hikone Higashi High School

When I first heard I was placed in Shiga, I wasn't sure what to think. This isn't my first time living in Japan, working for JET. My first introduction to living in Japan had been Tokyo, a completely different experience from life here. Even though I'd been to 26 prefectures and planned on going to all someday, I'd only ever been around Shiga. Of course, when I thought of Shiga I thought of Lake Biwa. But, I eventually realized that it must've been some kind of fate that led me here.

I had forgotten that 3 members of a band I've loved since university are from Shiga. One of my Tokyo co-workers that I still keep in touch with, her mother is from Hikone; which is where I was placed. Not only that, but a member of a band I liked in high school graduated from the main school I'd be working at. Fate.

When you live as a JET in Tokyo, you feel like you're in a sea of so many others with so many things you can or need to do, and a lot of times you're on your own. I expected the same for Shiga, but I was pleasantly surprised by all the help that was available when I arrived.

My second month in Shiga I visited Yonbancho Square and Hikone Castle with a friend from Mie who'd been before, who was excited about going with me and introducing me to the mascot, Hikonyan. All I'd really seen before then was Hikonyan's schedule, which I pass by on my way to work (since then, I've seen Hikonyan a total of 6 times and will many more!).

From seeing multiple mascots, checking out different places with friends, enjoying the beauty of the cherry blossoms by Hikone Castle on my way to work, to simply just walking with a neighbor in the morning or hearing Takanori Nishikawa's voice sing the Heiwado theme while shopping; when it comes to living in Japan I would have to say that life in Shiga has really been the best for me so far.



Topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

ユニコーンALTの再来

アン クーパー (滋賀県立彦根東高等学校)

最初に滋賀県に配属されたとき、何も思い浮かびませんでした。JETに所属して働きながら日本に住むのは初めてではありません。日本での生活を初めて知ったのは東京で、ここでの生活とはまったく違うものでした。26都道府県に行ったことがあり、いつか全部行こうと思っていたにもかかわらず、滋賀県には行ったことがなく、その周辺の都道府県にしか行ったことがありませんでした(もちろん、滋賀には琵琶湖のイメージはありましたが)。しかし、やがて私は、ここに導かれたのは何かの縁に違いないと気づきました。

大学時代から好きだったバンドのメンバー3人が滋賀出身だということを思い出しました。また今でも連絡を取り合っている東京の同僚の一人は、母親が彦根出身で、私が配属されたのも彦根でした。それだけでなく、高校時代に好きだったバンドのメンバーが、私が主に勤務している学校の卒業生でした。運命ですね。

東京でJETに所属して生活していると、大勢の人の海の中で、できることや、やらなければならないことがたくさんあるような気がして、一人で抱え込んでしまうことが多かったです。滋賀でも同じだろうと思っていたのですが、滋賀に来てからは、たくさん助けてもらう機会があつてとても驚きました。

滋賀に来て2ヶ月目に、彦根城を訪れたことがある三重の友人と一緒に、四番町スクエアと彦根城に行き、そこで彼女は嬉しそうにマスコットのひこにゃんを紹介してくれました。それまで私は、通勤途中にあるひこにゃんのスケジュール表しか見たことがありませんでした(それ以来、合計6回ひこにゃんに出会いました。これからも何度も出会うでしょう!)。

たくさんのマスコットを見たり、友達と色々な場所を訪れたり、通勤途中に彦根城のそばで美しい桜を楽しんだり、朝に近所の人とただ散歩したり、買い物中に平和堂のテーマを歌う西川貴教さんの声を聞いたり、日本での暮らしと言えば滋賀での生活は今のところ私にとって最高であると言えるでしょう。

※ユニコーンとは、JETにおいて5年以上勤務するALTのことを指す愛称です。そういった方は非常に珍しいことから、ユニコーンと呼ばれています。

How Things Change

Cheyenne Moon Price, Shiga Prefectural Board of Education

Since becoming the ALT Prefectural Advisor (PA) last summer as part of my role at the High School Education Division, I now have twenty-one schools.

“Teaching English” as a concept has morphed into something less about planning lessons and more about engaging students in a meaningful way with the limited time I have available.

Now I work with teachers across Shiga Prefecture. The schools I visit are vastly different from one another. Office life can be high pressure, but that pressure disappears when I stand before a class and teach. My goal as a teacher is no longer only memory and recall, but also to inspire students in their English studies.

While I worry that my classes may not be of use to students, I am reminded of one individual. This student asked good questions and responded to the interactive elements of my presentation. After class, I was told that he is normally bored, which surprised me. I might only have a few classes at each school, but it makes the time I spend there worthwhile—especially when I see how my presence as an ALT makes a positive contribution.

When I arrived in Japan, I was a worried, self-conscious child, overly critical of any action or words said. That child still remains tucked away within me, protected by the shell of knowledge and experiences I’ve grown piece by piece. Sometimes things break parts of this shell, and I feel all of those old, sore feelings spilling out onto the floor. But the students brighten my day every time and my doubts disappear when I am teaching. I hope my students know just how much they’ve taught me as well.



Topic:

Teaching English

授業実践について

路線変更

プライス シャイエン ムーン (滋賀県教育委員会)

県教育委員会高校教育課のALTおよび県取りまとめ団体アドバイザーとして、現在21校の学校で授業を行っています。この経験を通して、授業を計画する際には、生徒の心を惹きつける授業を考えることが大切であることを学びました。

現在、様々な先生と一緒に仕事をしています。訪問する学校は、生徒も雰囲気もそれぞれ違います。緊張を感じながらも、黒板の前に立って教えると、不安に思っていることがすべて解消されます。ALTとしての私の目標は、生徒が英語の単語や文法などを暗記するのではなく、生徒が英語に対してやりがいを感じられるような指導をすることです。

時には、生徒たちが、私の授業にどのように思っているか心配することもあります。そうした思いになった時、いつもある生徒のことを思い出します。その生徒は質問をしてくれて、積極的に発表もしてくれました。授業が終わった後、担任の先生から、その生徒は授業中退屈していることがよくあったそうです。それを聞いて驚きました。恐らく、私が各学校での授業を行うことは年に1回か2回しかありませんが、ALTの存在が少しでも学習に貢献できたことを感じると、とてもうれしい気持ちになります。

来日したとき、色々心配をして、他人の行動や言葉に関して少し神経質になることもありました。色々な経験を通して、少しずつ成長してきましたが、まだ十分でないと思うこともありますが、私が教える授業や滋賀県で出会う生徒たちは私を幸せにしてくれます。教えるとき、不安が消えると思えます。私は教えるだけでなく、生徒からも多くのことを学んでいます。

It's Been a Blast

Kyle O'Connor, Maibara Senior High School

These past five years have been a truly amazing experience for me, and sadly this must be my last year on the JET Program. Just like many of the other ALTs who come to Shiga, I had no idea what to expect. Upon finally arriving here, I realized how blessed I was to be placed here. The sweeping mountains, the lush rice fields, the ancient culture, the kind people, and the beautiful Lake Biwa. There is so much to learn and so many places to explore. Shiga has become not just another place I have lived, but my home.

Why has it become my home? Well, more than anything else, it has been the people I have met while living here in Shiga that have made this experience so worthwhile. The teachers at Maibara have slowly and kindly taught me the best ways to help the students learn. They have helped with countless troubles, both inside and outside of work.

The students as well have helped me just as much as the teachers. It's been such a joy to bring out their personalities and excitement during English classes. Seeing a class of smiling students reminds me how rewarding it is to be a teacher, and makes me want to do my best.

With all that being said, you may be wondering if I will stay in Japan. The answer is, yes! I will continue my life here in Shiga, doing the best I can, both in teaching and in representing America.



Topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

最高の時間

オコンナー カイル（滋賀県立米原高等学校）

この5年間は私にとって本当に素晴らしい経験でした。私はミシガン州から来たのですが、滋賀に来る他のALTと同じように、滋賀県について全く分かりませんでした。ようやく滋賀に到着して、私は滋賀に派遣されることがいかに恵まれているかを実感しました。一面に広がる山々、青々とした田んぼ、古い文化、親切な人々、そして美しい琵琶湖。学ぶべきことはたくさんあるし、探検すべき場所もたくさんあります。滋賀は私が住んでいるもうひとつの場所というだけでなく、私の故郷となりました。

なぜ滋賀が私の故郷になったかということ、何よりも、滋賀に住んでいる間に会った人たちが、この経験をとて価値のあるものにしてくれたからです。米原高校は私の主な仕事場です。私が滋賀に来てから、先生方は親身になって相談にのってくれました。生徒の勉強を助ける最善の方法を、ゆっくりと親切に教えてくれました。仕事の内でも外でも、数え切れないほどのトラブルを助けてもらいました。

生徒たちも先生たちと同じように私を助けてくれました。英語の授業で彼らの個性や興奮を引き出せるのはとても楽しいことです。生徒の笑顔を見ると、教師という仕事のやりがいを感じ、自分も頑張ろうと思います。

ということで、私が日本に留まるかどうかですが、答えはYES！これからもここ滋賀県で、教えること、そしてアメリカ人の代表として、できる限りのことをしていきたいと思っています。

A comfort space

Arvin Javier Benamije, Funaoka Junior High School

From the day I stepped into the land of the rising sun, there was much hope and anticipation within me to experience many things about Japan. At first, I was in a blank slate of what Shiga looked like and how it felt to live overseas.

Transitioning my life to a foreign country like Japan was not easy and moved me in many ways.

Growing up in a tropical country like the Philippines, I see that Higashiomi City and Pililla, Rizal, my hometown, share the same picturesque scenery. Both are surrounded by plain rice fields, mountains, and a nearby lake. Essentially, it gave me insurmountable connections to feel at home in Japan while enjoying life with nature. Meanwhile, if there is one huge difference—that is where Higashiomi City and Shiga allowed me to experience the sheer beauty of the four seasons. It gave me a different perspective of cherishing each fleeting moment.

As my life continues miles away from my comfort zone, I cannot help but fall in love, not only with nature but also with the Japanese people. I could not forget when I lost my winter jacket at the train station, my cell phone in the supermarket, and even a single ball pen in the classroom. I was astounded whenever such personal belongings were brought back to me. Undoubtedly, Shiga resonates with the idyllic countryside life of well-mannered people. Hence, Shiga is a place you can call your comfort space. With this, it is evident to me now why Filipinos and the world admire Japan.



Topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

快適な空間

アービン ハビエル ベナミエ (東近江市立船岡中学校)

日出ずる国に足を踏み入れたその日から、私の中には日本について多くのことを体験したいという希望と期待が芽生えました。最初は、滋賀がどんなところなのか、海外で暮らすのはどんな感じなのか、全くの白紙状態でした。日本のような外国に生活を移すことは簡単ではありませんでしたが、多くの点で私を感動させました。

フィリピンのような南国で育った私にとって、ここ東近江市トリサール州ピリジャは同じ美しい風景を持っています。どちらも平野、山、近くの湖に囲まれています。まず、自然との生活を楽しみながら、日本でくつろぐという、かけがえのないつながりを私に与えてくれました。一方、大きな違いがあるとすれば、それは東近江市や滋賀県では、四季折々の美しさを感じることができるという点です。それは私に、一瞬一瞬を大切にするという別の視点を与えてくれました。

私の日本での生活は快適なフィリピンでの場所から数マイル離れたところにありますが、私は自然だけでなく、日本の人々にも恋をせずにはいません。駅で冬用の上着を失くしたとき、スーパーで携帯電話を失くしたとき、さらには教室でボールペン1本さえ失くしたときのことは忘れられません。私はそのような私物が戻ってくるたびに驚きました。間違いなく、滋賀は礼儀正しい人々の、のどかな田舎の生活に裏打ちされています。したがって、滋賀はまさに安らぎの空間と言えるでしょう。これで、なぜフィリピン人だけでなく世界が日本を賞賛するのかが明らかになりました。

Kindness and Smiles are Universal

Christian De Dios Libunao, Choo Junior High School

Language is natural and universal. It is inherent for it is ingrained in our way of thinking and living. Likewise, it is common because it symbolizes everything expressed in any language. This idea has come across as I imbibe the motto of my school—"Wagen Aigo." It is a Buddhist teaching that serves as a reminder to never forget show kindness to other people. Subsequently, this Japanese expression made me realize that whatever language we speak, a smile and kindness always translate the same way.

For almost two years of teaching at Choo Junior High School, I have reckoned that what makes my school so special is how the students and the teachers practice this Japanese expression in their daily lives. Typically, language barriers and cultural differences are the biggest buffers that I need to conquer to survive. However, the emotional strain of dealing with these things became less because of the smiles and kindness that I received from them. My students and the teachers' smiles make me happy and positive. Their kindness makes me feel that Shiga could be my second home. Meanwhile, learning English could be hard for my students at some points, but smiling at each other during the class could ease the pain of misunderstanding and learning. Helping them with a smile on my face cheers them up. It helps them to keep on learning even though the lessons become difficult. Thus, the concept of smile and kindness is truly natural and universal across languages and cultures.



Topic:

Japanese Culture

日本の文化について

笑顔と優しさは世界共通です

クリスチャン ディー ディーオース リブナオ (東近江市立朝桜中学校)

言語は自然で普遍的です。それは私たちの考え方や生き方に根付いているからです。同様に、それはあらゆる言語で表現されるすべてを象徴するため、一般的です。この考えは、私の学校のモットーである「Wagen Aigo」を吸収する中で出てきました。これは、他人に親切を示すことを決して忘れないことを思い出させる仏教の教えです。そして、この日本語の表現を見て、どんな言葉を話しても、笑顔や優しさはいつも同じように訳されるのだと気づかされました。

朝桜中学校で2年近く教えてきましたが、私の学校が特別なのは、生徒と教師が日常生活の中でこの日本語表現をどのように実践しているかだと考えています。通常、言語の壁や文化の違いは、私が生き残るために克服しなければならない最大の緩衝材です。しかし、彼らから受けた笑顔と優しさのおかげで、これらのことに対処する感情的な負担は軽減されました。生徒さんや先生方の笑顔は、私を幸せにし、前向きにしてくれます。彼らの優しさは、滋賀が私の第二の故郷かもしれないと感じさせてくれます。一方、英語の学習は生徒にとって難しいところもありますが、授業中において笑顔で話すことで、誤解や学習の痛みを和らげることができます。笑顔でお手伝いをすることで、元気が出ます。レッスンが難しくなっても、学び続けるのに役立ちます。このように、笑顔と優しさの概念は、言語や文化を超えて真に自然で普遍的なものです。

Kawaii : A Cute Culture Shock

Czarah Jane J. Miranda, Eigenji Junior High School

Just like other foreigners, I've always been in awe of the way Japan delicately balances and allows traditional and pop culture to coexist. Speaking of pop culture, my favorite would have to be the kawaii culture, a Japanese phenomenon that celebrates all things cute and adorable. Personally, this has had an insightful impact on my growth and self-discovery. As a resident of Japan, my experiences of kawaii allowed me to gain a deeper understanding of Japanese culture and most importantly, I have been able to reconcile with and heal my inner child.

It is also fascinating that kawaii can also shift its lens on imperfection and vulnerability. Its celebration of "ugly" and "imperfect" characters, kimokawaii, has also been a refreshing relief on the unrealistic beauty standards presented on various media platforms. This unusual perspective has helped me to let go of my need for perfectionism, allowing me to develop a more accepting attitude of myself.

Kawaii's emphasis on individuality and self-expression allows us to tap our creative sides and explore our uniqueness. While celebrating cultural diversity and identity, there is a sense of freedom and empowerment through different perceptions of kawaii. Ultimately, I believe it can unite individuals and foster a feeling of community and belonging.

「カワイイ～かわいいカルチャーショック～」

ミランダ ザラー ジェイン (東近江市立永源寺中学校)

ほかの外国人と同じように、私も日本の伝統文化とポップカルチャーを微妙なバランスで共存させる方法に常に畏敬の念を抱いてきました。ポップカルチャーと言えば、私のお気に入りには「カワイイ」でしょう。これはかわいいものや愛らしいものすべてを称賛する日本の現象です。個人的に、これは私の成長と自己発見に洞察力のある影響を与えました。日本在住者として、私は「カワイイ」の経験により、日本文化をより深く理解することができました。そして、もっとも重要なことに、私は自分の内面の幼さを受け入れ、癒すことができました。

また、「カワイイ」が不完全性や脆弱性に焦点を当てることができることも魅力的です。「醜い」「不完全な」キャラクターを称賛する「キモカワイイ」は、様々なメディアプラットフォームで提示される非現実的な美しさの基準を和らげるものでもあります。この珍しい視点のおかげで、完璧主義への欲求を手放すことができ、自分自身をより受け入れる姿勢を身に付けることができました。

「カワイイ」が個性と自己表現を重視することで、私たちは創造的な側面を活用し独自性を探ることができます。文化的多様性とアイデンティティを称賛しながら、「カワイイ」に対する様々な認識を通じて自由と力を与える感覚が生まれます。最終的には、それが個人を団結させ、コミュニティへの帰属意識をはぐくむことができると私は信じています。



Topic:

Japanese Culture

日本の文化について

Experiencing Japanese Culture Through Literature

Jack Long, Notogawa Junior High School

I have been a huge fan of reading books since I was in high school. Ever since I moved to Japan, I have been making an effort to read as many classic Japanese novels as I can. Through reading Japanese novels while living in Japan, I have come to learn about many aspects of Japanese culture and history that I did not know about before. One example of a Japanese novel that I have read is Moeyo Ken by Ryotaro Shiba. The novel is about the Shinsengumi, and follows the life of Toshizo Hijikata. The Shinsengumi was based in Kyoto, and during trips to Kyoto I have visited many of the locations that are important to the history of the Shinsengumi and the Boshin War. I think that it is amazing that I can visit the real life locations that are mentioned in the book, and learn about the real history behind them. Another Japanese author that I like is Yasunari Kawabata. His novels contain many aspects of Japanese culture. Recently, I read his novel Thousand Cranes. Traditional Japanese Tea Ceremonies are an important part of the novel. I have experienced a Japanese tea ceremony here in Shiga prefecture, and that real life experience helped me gain a deeper understanding of the novel, and of Japanese culture as a whole. I am looking forward to read more Japanese novels and to visit more locations that have been eternalized through literature. I think it is an amazing opportunity to be able to experience Japanese culture both in real life and through literature.



Topic:

Japanese Culture

日本の文化について

文学から日本文化を体験して

ロング ジャック (東近江市立能登川中学校)

私は高校生の頃から本を読むのが大好きでした。日本に引っ越してきてからというもの、できるだけ多くの日本の古典小説を読むようにしています。日本に住みながら日本の小説を読むことで、今まで知らなかった日本の文化や歴史の多くの側面を知るようになりました。私が読んだ日本の小説の一例は、司馬遼太郎の『燃えよ剣』です。この小説は新選組に関するもので、土方歳三の生涯を追っています。新選組は京都を拠点としており、京都への旅行中に、新選組や戊辰戦争の歴史にとって重要な場所の多くを訪れました。本に出てくる実際の場所を訪れ、その背後にある本当の歴史について学ぶことができるのは素晴らしいことだと思います。私が好きなもう一人の日本の作家は川端康成です。彼の小説には日本文化の多くの側面が含まれています。最近、彼の小説『千羽鶴』を読みました。伝統的な日本の茶道は小説の重要な部分となっています。私は滋賀県で日本の茶道を体験しましたが、その実体験によって、小説や日本文化全体に対する理解が深まりました。日本の小説をもっと読み、文学で永遠に残る場所をもっと訪れたいと思っています。実生活と文学の両方で日本文化を体験できるのは素晴らしい機会だと思います。

My Journey in Japanese

Kayla Clifford, Gokasho Junior High School

When I moved to Japan about 9 months ago, I didn't speak much Japanese at all. I loved the language and the culture, but even after studying for months after I arrived, I felt like I still couldn't speak at all. Every time someone spoke to me in Japanese, my mouth would open, but my voice just wouldn't come out. Even though I knew what I wanted to say, I could never manage to actually say it. It was lonely and frustrating, and I started to wonder if I would ever be able to speak Japanese.

Then, I found a special community of my own—online! Now, I study Japanese every day, and in the evenings, I can connect to a community of dozens of foreigners and Japanese people who are all trying hard every day to learn each other's language! Not only can I make native-speaking friends who help me practice my Japanese, but I can also help them with their English and exchange our cultures together. Now, I have the motivation and support to study and use Japanese every day as I enjoy my life in Shiga Prefecture to the fullest, making new friends and seeing new sights every day. I've learned a lot about myself, and I can't wait to learn even more as I continue working and living in Japan as an ALT!



Topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

私の日本語における遍歴

クリフォード ケイラ (東近江市立五個荘中学校)

9ヶ月前に日本に引っ越してきたとき、日本語をあまり話せませんでした。言葉も文化も大好きでしたが、着任して何ヶ月も勉強しても、まだ全く話せないような気がしていました。日本語で話しかけられるたびに、口は開いても声は出ませんでした。言いたいことはわかっている、実際に声にすることはできませんでした。とても寂しくて悔しくて、自分は日本語を話せるようになるのだろうかと思い始めました。

そして、オンラインという特別なコミュニティを見つけました！今は毎日日本語を勉強していて、夜になると、毎日一生懸命勉強している何十人もの外国人と日本人のコミュニティとつながることができます！日本語の練習を手伝ってくれるネイティブスピーカーの友達を作るだけではなく、彼らの英語を手伝い、文化を交流することができます。今は、滋賀県での生活を存分に楽しみ、毎日新しい友達を作り、新しい景色を見ることができています。日本語を勉強してそれを使うためのサポートも多く、すごくモチベーションが上がっています。私は自分自身について多くのことを学びました。そしてALTとして日本で働き、生活し続ける中で、さらに色々なことを学ぶのが楽しみで仕方ありません！

Contemplations on Tea, Tradition, and Tranquility

Raisa Dominique Garcia Perez, Aito Junior High School

As an avid coffee enthusiast, I must admit that the taste and aroma of tea initially did not appeal to me. Nonetheless, I eventually came to appreciate it through my immersion in several Japanese Tea Ceremonies (茶道).

In preparing for 茶道, the host consciously chooses the type of tea, incense, tea utensils and their materials, flowers, calligraphy, and room arrangement. These elements are carefully aligned with the season, occasion, and guests' backgrounds. This intricate and meticulous level of preparation encourages every participant to connect with the moment and the surroundings, while being mindful of their thoughts and bodily sensations. Through my regular engagement with 茶道, I witnessed how it can cultivate inner calmness, reduce mental clutter, and foster creativity.

茶道 goes beyond being a rich and multifaceted art and tradition. In the midst of this restless modern world, it provides a personal retreat into tranquility. It reminds me to embrace a lifestyle of intentional living and mindful thinking; that in everything I do, it is not the quantity of what I accomplish that matters, but the quality of it.

茶、伝統、静けさについての考察

ライサ ドミニク ガルシア ペレツ (東近江市立愛東中学校)

コーヒー愛好家として、最初はお茶の味と香りに惹かれなかったことを認めざるを得ません。しかし、いくつかの茶道に参加することで、次第にその魅力を理解するようになりました。

茶道の準備において、ホストは茶の種類、香、茶道具とその素材、花、書道、部屋の配置を慎重に選びます。これらの要素は季節、機会、およびゲストの背景に合わせて丁寧に整えられています。この細部にわたる緻密な準備は、参加者全員がその瞬間と環境に集中し、自分の思考や体の感覚に注意を向けることを促します。茶道に定期的に参加することで、内なる静けさを育み、心の雑念を減らし、創造性を高めることができることを実感しました。

茶道は豊かで多面的な芸術と伝統を超えた存在です。この騒がしい現代世界の中で、個人的な安らぎへの避難所を提供します。それは私に意図的な生活と慎重な思考を取り入れることを思い出させてくれます。私が行うすべてのことにおいて、重要なのは達成する量ではなく、その質であることを。



Topic:

Japanese Culture

日本の文化について

From this Corner of the World

Rene Vazquez, Tamazono Juniou High School

When I first found out I was going to be placed in Higashiomi, I wasn't sure what to expect. I know we were expected to be flexible, but I was really holding out for a more rural setting. When I saw the population of over 100,000, my expectations were completely shattered.

Would I make close friends in a place so large? Would my Japanese be proficient enough? Would I be able to continue my hobbies? I was ready to rely on the benefits of a small rural town in order to make connections. How would I find that in a place that's too big to know everyone, but too small to have more than one single street of entertainment?

Thankfully, my worries were quickly expunged after living here for half a year. It started with students smiling as they told me their names. It was the realization that there were people living lives just as complex as anyone else. I was always aware of this natural fact, but to see it lived out was different entirely. Now, I can hardly go a single day outside in public without finding students to talk to about our daily lives.

The thing about life is that it follows you wherever you go, whether you choose to make something or not. The same is true for all people. Regardless of where you are, there will always be people living their lives ready to make connections with other people. From an alley of urban Tokyo to the smallest fishing village, to Higashiomi. A town where the kids ride their bikes between a few places on the main street, and the occasional cat can be spotted in the rice paddies. I'm proud to be able to call Higashiomi my current home.



Topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

この世界の片隅に

レネ バスケス (東近江市立玉園中学校)

東近江市に配属されると初めて知ったとき、何を期待していいのかわからなかった。柔軟性が求められていることは知っていたが、もっと田舎の環境を期待していた。人口が10万人を超えるのを知って、期待は完全に打ち砕かれた。

こんなに大きな町で親しい友人ができるだろうか？日本語は十分に堪能だろうか？趣味を続けられるだろうか？人脈を作るために、田舎町の小さな利点に頼る覚悟はできていた。みんなを知るには大きすぎるが、娯楽の通りが1つしかないほど小さい町で、どうやって人脈を見つけられるだろうか？

幸運にも、半年住んでから不安はすぐに消えた。それは、生徒たちが笑顔で自分の名前を教えてくれたことから始まった。他の人と同じように複雑な人生を送っている人がいることに気づいたのだ。この当然の事実には常に気づいていたが、実際にそれを目の当たりにするのはまったく違った。今では、学生たちと日常生活について話す機会がない日はほとんどありません。

人生は、何かを作るかどうかに関わらず、どこへ行ってもついてきます。それはすべての人に当てはまります。どこにいても、他の人とつながりたいと願う生活を送っている人が必ずいます。都会の東京の路地から、小さな漁村、そして東近江まで。子どもたちがメインストリートの数か所を自転車で行き来し、田んぼで猫を見かけることが時々ある町。東近江を「第2のふるさと」と呼べることを誇りに思っています。

JET Essay

Cameron Stuart Hart, Koka City Koga Junior High School

Here at last, I come to the end of my journey. One year? Three years? Surely five years haven't passed since I first set foot in little Koka, Japan. 'Where on Earth is Koka?' I thought, as I scrambled to type the name into the Google search bar upon receiving my placement email. Koka was a world away from Dorset, England. I traded pubs, wild ponies and bad weather for shrines, sushi and humid summers.

It seems I will have to make the trade again very soon, some of which will be harder to accept than others (Although, I'd take beans on toast over natto gohan any day). That said, I have a feeling that I won't truly appreciate the aspects of Japanese life I have come to know and love, until after I have left them behind. Last weekend, I was in a motorcycle accident. Not a particularly serious one, but serious enough that I broke the bone in one of my fingers. This rendered my right hand useless, at least until it heals, which will be long after I leave Japan. This means I won't be able to play in the last rugby game for my club this weekend, nor play basketball or badminton with my students during club activities, or even swim in Lake Biwa with my friend at the farewell BBQ. It seems that I am already leaving behind aspects of my life here in Japan. What's important now I think is to focus and enjoy the things I can do before I leave. As Gandalf says, "All we have to decide, is what to do with the time that is given to us".



Topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

JET Essay

キャメロン・スチュアート・ハート(甲賀市立甲賀中学校)

ついに、私は旅の終わりを迎える。1年？3年？私が日本の甲賀に初めて足を踏み入れてからきっと5年も足っていない。「甲賀っていったいどこにあるの？」メールを受け取って慌ててグーグル検索欄に地名を入力しながら私は思った。甲賀市はイギリスのドーセット州とは別世界だった。私は神社や寿司、湿気が多い夏と引き換えに居酒屋や野生の子馬を手放した。

近いうちにまた手放すことをすることになると思うが、そのうちのいくつかは他のものよりも受け入れ難いだろう。(けれども私はいつでも納豆ごはんよりもトーストの上に豆を乗せて食べるよ。)そんな風に言っても私が知って、愛するようになった日本の生活の側面を本当に理解できるのはそれらから去ったあとになるような気がする。

先週末、私はバイク事故にあった。特に大きな事故ではなかったが、指1本の骨を折るほど深刻だった。このため私の右手は少なくとも治るまでは使えなくなったが、治るのは日本を出てからかなり時間がかかるだろう。つまり、今週末はラグビーの試合に出場することもできないし、クラブ活動で生徒たちとバスケットボールやバドミントンをする 것도できないし、お別れバーベキュー会で友達と琵琶湖で泳ぐこともできないことになる。

私はすでにここ日本に自分の生活を置き去りにしつつあるようだ。

今、大切なのは、出発する前にできることに集中して楽しむことだと思う。ガンダルフは「私たちが決めなければならないのは、与えられた時間をどうするかだけだ」と言っている。

Community and Culture in Minakuchi, Japan

Deven Mahanti, Koka City Minakuchi Junior High School

My experience with Japanese life has been wonderful.

10 months in, I can say I'm confident living in Japan. Koka's people are always willing to help somebody in need. My most touching memory comes from my 2nd month here. I was sick, and I wasn't sure what to buy to treat me. I was too afraid to ask anybody too. At one point, two salesmen came to my door. I apologized in limited Japanese, explaining how I didn't have a mask and didn't want to make them sick. A few minutes later, they knocked on my door again with water, soup, bread, and some medicine to help me. It was a touching experience that made me feel like a part of the community.

That's only one part of being a community member. It's important to participate in community events too! I had the opportunity to participate in our town festival by pulling a ward's float through the narrow streets to our shrine. Each float had a display on top. At the top of our float was a scene from Genji Monogatari, "The Tale of Genji." Though I didn't climb to the top, I was asked to help directly in pushing the float back to its garage at the end of the night. It was simply unforgettable.

Participating directly in the struggle - and commotion - to move our ward's cart to and from the festival helped me feel integrated into my community. I've made wonderful connections in Koka that I hope will last forever.



Topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

日本の水口でのコミュニティと文化

デビン・マハンティ(甲賀市立水口中学校)

私の日本生活の経験は素晴らしい。

10ヶ月が経過し、日本で生活することに自信が持てたと言える。甲賀市の人たちは、困っている人をいつも喜んで助けてくれる。一番心を動かされた思い出は、日本に来て2ヶ月目のことだった。私は病気を患って、治すために何をかうべきか、確信を持てなかった。また、怖くて誰にも尋ねることもできなかった。ちょうどその時、ふたりのセールスマンが玄関にやってきた。私はマスクをつけておらず、彼らを病気にさせたくないということを限られた日本語で説明して、謝った。それから数分後、そのふたりが再びドアをノックして、私を助けるために、水とスープ、パン、薬を持ってきてくれた。これが、私にコミュニティ(地域社会)の一員のように感じさせた素晴らしい経験だった。

それは地域社会の一員であるという唯一の部分だ。また、地域社会の行事に参加することも大切だ。私はわが町のお祭りに参加する機会を持てた。そのお祭りで、狭い道を通って神社まで、町の山鉾を曳くことができた。山鉾には各々、屋根上に飾りがあった。私が曳いた山鉾には「源氏物語(The Tale of Genji)」の一場面の飾りがあった。私は屋根上に登らなかったけれど、その日の夜に、山鉾の保管所まで山鉾を曳くことをじかに頼まれた。それがどうしても忘れられない思い出だった。

その祭りで山鉾をあちこちに動かして奮闘して参加することで、私はコミュニティのなかに統合された気持ちになった。甲賀市で素晴らしい交流を築き、その交流が永遠に続くことを望んでいる。

Experiencing Japanese Culture

Joseph Timbs, Koka City Tsuchiyama Junior High School

I had never been outside the States before. In fact, I had never even ridden an airplane before. So, coming to Japan last year and moving to the deep countryside of Tsuchiyama to teach has been an incredible adventure for me. Since my arrival, I have taken nearly every opportunity I have had to explore this country's beautiful history. A history that is well preserved in its architecture. Some of the most exciting and edifying sites I have visited have been the location of the nearly 100-year-old Keibajo racecourse in Kyoto, the 315-year-old Buddhist temple, Todai-ji, in Nara, and the 600-year-old Himeji Castle in Hyogo. I found that each of these locations are sure to leave any visitor with an indelible impression. However, I would like to say that the most enriching aspect of my adventure has been the people of Tsuchiyama. They have been so kind and welcoming to me. I know that their support has encouraged me to make the most of my adventure and that it wouldn't be possible if it wasn't for their care. I am so fortunate to be surrounded by such people and for as long as I am here, I will always do my best to give back to this wonderful community.



Topic:

Japanese Culture

日本の文化について

日本文化の経験

ジョセフ・ティムス(甲賀市立土山中学校)

私はこれまでアメリカ国外に出たことがありませんでした。実のところ、飛行機に乗ったことすらなかったのです。よって、昨年日本に来て、土山の奥深い田舎に移住し、英語を教えることになったのは、私にとって信じられないほどの冒険でした。来日後、毎週末のようにこの町の美しい歴史を探索しています。それらの歴史は、その建築によく表れています。私が訪れた中で最も興味深く、多く学んだ場所は、100年近くの歴史を持つ京都の競馬場、315年の歴史を持つ奈良の東大寺、600年の歴史を持つ兵庫の姫路城です。これらの場所は、訪問者にとって非常に印象深い場所であると思います。

しかしながら、私の冒険で一番豊かなものは、土山の人々だと言いたいです。彼らはとても親切で、私を歓迎してくれました。彼らのサポートが私を励まし、この冒険を最大限に楽しませてくれました。彼らのサポートがなければそれは不可能だったと思います。私はそのような人々に囲まれていることをとても幸せに思いますし、私がここにいる限り、この素晴らしいコミュニティに恩返しをするために最善を尽くしたいと思います。

My Life in Shiga

Kelly Reid, Koka City Shiroyama Junior High School

Reflecting on my time as an English teacher in Shiga Prefecture, I've come to cherish the peaceful rural life and rich cultural experiences this region offers.

Shiga's tranquil countryside has been a refreshing change from the busy city life of Kalamazoo Michigan. Living near Lake Biwa has been a highlight, with its serene beaches and clear water providing a beautiful reprieve on the weekends.

Culturally, Shiga has been fascinating to explore. Places like Shigaraki, known for its traditional ceramics, have given me insights into Japan's artisanal traditions. The shrines and temples across the prefecture have also been enlightening, offering glimpses into Japan's spiritual heritage.

Settling in an area like Koka has been wonderful for my family. The mild winters and abundance of outdoor activities have allowed us to enjoy nature year-round, fostering a strong sense of community with other local families.

Looking back, my time in Shiga has been enriching, deepening my appreciation for Japan's cultural richness and providing cherished memories with my family.



Topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

日本での生活

ケリー・リード(甲賀市立城山中学校)

滋賀県で英語教師をしていて感じたことを振り返ります。私はこの地域で過ごしているうちに、平和な田舎の生活と豊かな文化体験を大切に思うようになりました。

滋賀の静かな田舎の雰囲気は、ミシガン州のカラマズーでの忙しい都会の生活から新鮮な変化をもたらしてくれています。琵琶湖の近くに住むことは特筆すべき点であり、穏やかなビーチやきれいな水があることは週末に素敵な余暇をもたらしてくれます。

文化的には、滋賀には探求すべき魅力的なものが点在しています。伝統的な陶芸づくりとして知られている信楽のような場所は日本の伝統的な芸術に目を向ける機会をくれています。県内各地に点在する神社仏閣を巡れば日本への理解を深められたり、受け継がれてきた日本の考え方の一端を垣間見る機会を与えてくれます。

甲賀市のような特定の地域に定住することは、私たち家族にとっても素晴らしいものになっています。穏やかな冬やアウトドア活動の豊富さは一年を通して満喫できるし、地元の人たちとの強いコミュニティを築くことができます。

振り返ると、滋賀で過ごしている時間は充実しています。日本文化の豊かさや、家族との大切な思い出を与えてくれることに深く感謝しています。

When in Japan,...

Shelby Keiko Davis, Koka City Konan Junior High School

“When in Rome, do as the Romans do.” The equivalent proverb in Japanese is 郷に入っては郷に従え, gou ni haitte ha gou ni shitagae. When you enter a village, obey the village. While they use different words, both express the same meaning. When you’re in a new place, observe the customs and mannerisms of others and follow their lead.

As a non-native to Japan, I often stick out like a sore thumb. My fashion sense and my mannerisms cause me to be easily noticed in a public space. In my first year living in Japan, it bothered me. I learned many things about Japanese culture through my efforts to assimilate and stick out less. Such as, sneezes aren’t acknowledged, friends don’t often hug each other goodbye, and rock-paper-scissors is used for most decisions, even among adults.

In many ways, learning these customs and mannerisms has helped me to further understand my students, coworkers, and the community. I also believe some of the new ways I have learned how to do things are better than how they’re done in my ‘village.’ However, teaching about American culture is just as important as learning about Japanese culture in promoting international exchange. So, I have found ways to share my customs, from saying “bless you” when my coworkers sneeze, to hugging my friends when we say goodbye.

Of course, there are cases where following customs are the polite and arguably the right thing to do. Learning how to follow the ‘village’ while maintaining my identity and sharing my culture is one of the many invaluable experiences I have had while living in Japan.



Topic:

Japanese Culture

日本の文化について

日本に入っては、。。。。

シェルビー・ケイコ・デイヴィス（甲賀市立甲南中学校）

“When in Rome, do as the Romans do”という英語のことわざを日本語に訳したら、「ローマにいるときは、ローマ人のするようにしなさい」となります。日本のことわざでは「郷に入っては郷に従え」です。表現の仕方は違いますが、同じ意味をあらわしています。新しい場所に行ったときは、周りの人たちの文化や習慣を観察して習うべきです。

私はネイティブではないので、自分の服装や習慣の違いから日本人々とは異なり目立つので、日本に来た最初の年はとても気にしていました。日本の社会に馴染めるように、日本の文化についてたくさん学びました。例えば、日本ではくしゃみをして誰も“bless you”と言ってくれないこと、友達と別れるときにハグをしないこと、じゃんけんは大人子どもに関わらず何かを決めるときによく使われることなどです。

日本の文化や習慣を学ぶことで生徒や同僚を理解することにつながりました。私が学んできたいくつかの新しいやり方が、「故郷で培った方法」よりもより良いものだと信じています。しかし国際交流を促進するためにアメリカの文化を教えることは日本の文化を学ぶことと同様に大切です。なので、私は同僚がくしゃみをしたときに、“bless you”と言ってみたり、友達と別れるときにハグをしたりして文化を伝えるようにしました。

住んでいる国の文化や習慣に従い学ぶことは当然のことです。自分のアイデンティティや文化を大切にしながらその場所に馴染む方法を学ぶことは私が日本に住んでいる間にできるとても貴重な経験の一つです。

A New Life: Breaking Down, and Building Back Up Together

Sophie Nevel, Koka City Shigaraki Junior High School

Shiga truly is a magical place. I have lived here for almost three years now, and have found a new life here. When we live in one place for most of our lives, we have no idea how a new place might change us. There are so many aspects of life to consider when moving to a different place: different cultures, languages, environments, foods, places, people. I thought I was prepared before moving here, but I could not even imagine the wonders waiting for me, the experiences and the people that would change my life and lead me to grow more than I ever imagined I could. I have met people from all over the world during my time here, from Japan, Peru, Taiwan, Jamaica, New Zealand, Australia, the U.K., South Africa, the Philippines, Indonesia, and Italy, to name a few. I am so grateful to every person that I have connected with! Everyone that has touched my life has taught me something, from my students to my coworkers to my friends, and I hope that they can say the same about me. When I first began interviewing to be an ALT, I was told that life here would break me down and build me back up. I agree with this sentiment. I am so much different than who I was when I first arrived here. Through connecting with people, nature, and a culture that I still learn more about every day, I feel that life in Shiga is healing me and helping me grow in so many ways. Every day, I feel so lucky to be here.



Topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

一つの新生活: 自分を壊し、また一緒に再構築している

ソフィー・ネベル(甲賀市立信楽中学校)

滋賀は実に魔法の場所です。滋賀に住んで3年ほど経ち、新生活を見つけている。私たちは人生のほとんどを同じ場所で過ごしていると、新しい場所が自分をどのように変わるのか全く想像もつかない。別の場所に引っ越す時に別の文化や言語、環境、食べ物、場所、人々といった生活の側面をたくさん考えなければならない。私はここに引っ越す前に準備はできていたと思っていたが、私を待っていた驚異は想像することができなかった。経験は私の人生を変え、私の人生を変えた人々は想像していた以上に私を成長させてくれた。滋賀に住んでいる間に世界中の人々と出会った。いくつか例を挙げると、日本人やペルー人、台湾人、ジャマイカ人、ニュージーランド人、オーストラリア人、イギリス人、南アフリカ人、フィリピン人、インドネシア人、イタリア人である。私は自分と繋がりのあるすべての人に感謝している。生徒や同僚、友達など私の人生に影響を及ぼしたすべての人々は私に何かを教えてくれており、彼らも私について同じことを言ってくれるのを願っている。私が初めてALTになるために聞き始めた時、私はここでの生活は自分を壊し、また再構築するだろうと言われた。私はこの意見に同意する。私がここに初めて来た時の自分とはとても違う自分になった。人々や自然、いまだに日々学んでいる文化と繋がることで、滋賀での生活は私を癒し、様々な方法で私を成長させてくれていて感じている。私は毎日ここにいることがとてもラッキーと感じている。

Lessons in Tradition

Anna Jones, Soyo Junior High School

Through my role as an ALT, I've had the privilege of not only teaching English but also learning from my students and colleagues about the deep meanings in everyday customs.

From the outset, I have held deep respect for Japan's cultural heritage, admiring how tradition seamlessly mixes with modern life. Coming from a relatively 'young' country, having the privilege to witness firsthand how Japanese traditions are not only preserved but cherished and practiced with respect is something I feel extremely grateful for.

One aspect that particularly resonates with me is the significance of food in Japanese culture. Beyond sustenance, every meal is a reflection of seasonal changes, celebrations, and even spiritual beliefs. For instance, enjoying soba noodles on New Year's Eve symbolizes longevity and good fortune for the coming year. These traditions extend beyond mere consumption—they symbolize mindfulness, gratitude, and harmony with nature. The significance of food as a vessel for meaning and tradition has taught me invaluable lessons about respect, mindfulness, and the beauty of cultural continuity in Japan.



Topic:

Japanese Culture

日本の文化について

Lessons in Tradition

アナ・ジョーンズ (米原市立双葉中学校)

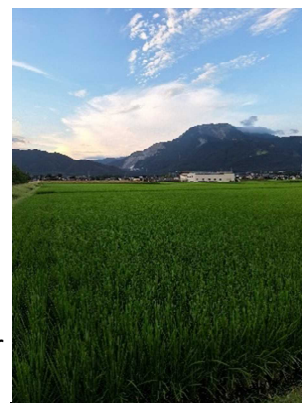
私のALTとしての役割を通じて、英語を教える経験を得ると同時に、日常の習慣に込められた深い意味を生徒や同僚から学ぶことができました。初めから、日本の文化遺産に深い尊敬の念を抱いており、伝統が現代生活に自然と調和する様子に感嘆しています。比較的「若い」国から来た私にとって、日本の伝統が単に保存されているだけでなく、尊重され、崇高に実践されていることを直接目撃することができた恩恵には、非常に感謝しています。

特に私にとって心に響いたのは、日本文化における食の重要性です。食事は単なる栄養摂取を超えて、季節の変化や祝祭、そして霊的な信念の反映だと感じました。例えば、大晦日にそばを食べることは、来る年の長寿と幸運を象徴しています。これらの伝統は単なる消費を超えて、心を込めた感謝と自然との調和を象徴しています。食が意味と伝統の媒体として持つ重要性は、日本における尊敬、文化の連続性の美しさについて、非常に貴重な教訓を私に教えてくれました。

A New Home

Christina Madera, Ohara Elementary School

Since arriving in Japan 11 months ago I've been amazed by my life in Shiga. I remember when I first got the notice of where I was going to be living I didn't know anything about this place called "Shiga". Naturally I had many different feelings about moving here. I was happy and excited about experiencing something new, but also nervous about moving so far away from my family and friends. Since moving here I've been able to be a part of so many wonderful things. I have always been welcomed by my fellow teachers and students and it makes me feel like I have my own kind of family here in Japan. It still amazes me how kind people here can be. For example on my birthday many teachers told me "Happy Birthday!" and the students made me surprise birthday cards. I've also been able to explore so many different aspects of life. In the classroom I get to play English games with our students and help them learn and improve their skills. Outside of the classroom I often enjoy hiking the mountains around my home, going to festivals, and local markets. Even though I've been here almost a year now, it feels like it's been much longer. Life in Shiga has a different pace from back home, a calm and slow pace that allows life to be purposeful and pensive.



Topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

新しい家

クリスティーナ・マデラ（米原市立大原小学校）

11ヶ月前に日本に来て以来、滋賀での生活に驚いています。最初に住む場所の連絡を受けたとき、「滋賀」という場所について何も知らなかったのを覚えています。当然、ここに引っ越してくることに対していろいろな思いがありました。新しいことを経験できる嬉しさと興奮、そして家族や友人と遠く離れて暮らすことへの不安。ここに引っ越してきてから、私は多くの素晴らしい体験ができました。先生や児童たちはいつも私を歓迎してくれて、日本に自分の家族ができたような気分です。日本人の優しさには今でも驚かされます。例えば先日、日本に来てから初めての私の誕生日を迎えました。その日に多くの児童や先生方から『誕生日おめでとう！』と声をかけてもらったり、誕生日カードをサプライズでもらったりしました。

また、人生のさまざまな側面を探求することもできました。教室では、児童と一緒に英語のゲームをしたり、児童の学習やスキルアップを手伝ったりしています。教室の外では、自宅周辺の山をハイキングしたり、お祭りや地元のスーパーに出かけたりしています。滋賀に来てもうすぐ1年になりますが、本当に充実した日々が過ごせています。滋賀での生活は故郷とはペースが違い、穏やかでゆっくりとしたペースなので、人生に目的を持って物思いにふけることができます。

Teaching at Two New Schools

Kaleb Thompson, Daito Junior High School

This year, I started teaching at both an elementary and a junior high school, each with unique environments and challenges.

At the elementary school, students range from beginners to those eager to converse in English. Their energy and enthusiasm require me to adopt to a more interactive teaching style.

I create fun and engaging lessons related to textbook topics using various techniques to make English enjoyable and meaningful. Some of my favorite lessons include: showing videos about New Zealand, creating PowerPoints, singing songs, reading short stories, and researching topics. These activities not only engage students but also teach important life skills. Making PowerPoints helps students express themselves creatively while improving their voice and confidence. And researching topics on their tablets broadens their understanding of the world.

I truly enjoy teaching English, especially seeing my students improve. As a new teacher, I have much to learn, but with the support and feedback from other teachers, I believe I can help students improve their English while also having fun.



Topic:

Teaching English

授業実践について

二つの新しい学校で教えること

ケイリブ・トンプソン（米原市立大東中学校）

今年から小学校と中学校両方で教えることになりましたが、それぞれにユニークな環境と課題があります。小学校では、英語初心者の児童から英語で会話することに熱心な児童まで、さまざまなレベルの児童がいます。彼らのエネルギーと熱意を感じると、より対話型の授業づくりを行う必要性を感じます。

英語を楽しく有意義なものにするために、教科書のトピックに関連した多様で魅力的な授業づくりを行っています。お気に入りのレッスンは、ニュージーランドについてのビデオを見せたり、パワーポイントを作成したり、歌を歌ったり、短い物語を読んだり、トピックについて調べたりすることです。これらの活動は児童生徒の興味を引くだけでなく、生きていく上で大切なことも教えてくれます。パワーポイントを作成することで、生徒たちは創造的に自分を表現し、声が大きくなって自信がつかます。また、トピックを調べることで、世界に対する理解が深まります。私は英語を教えることを心から楽しんでいます。新米教師として学ぶことはたくさんありますが、他の教師からのサポートやフィードバックがあれば、楽しみながら生徒の英語力を向上させることができると信じています。

Living in Japan

Kassandra Sauser, Kanan Junior High School

Last year I moved to Japan. It was my first timing moving out of my state, much less out of the country. To say it was a big change would be an understatement. I struggled with a lot of things when I arrived, from the chaotic orientation and dealing with jet lag, to the language barrier when moving into my apartment.

I expected the culture to be different but I didn't realize how much it would actually be. One of my favorite things is the history that surrounds everything here. From finding temples or shrines in the forest or hearing folk tales about how islands were born in Lake Biwa. It's very interesting to see how the new and old are intergrated into every day life. The food is also very different, I thought Japanese cuisine contained a lot more vegetables and less meat than it does. I've had some struggles with the culture of the Japanese workplace because it is so different from American workplaces.

Language is very intertwined in culture so I think learning Japanese has been an integral part to intergrating with the culture and the people. I still have a long way to go with my studies but I hope to improve. As well as helping the students improve their English.



Topic:
Japanese Culture
日本の文化について

日本での生活

カサンドラ・サウセル（米原市立河南中学校）

昨年、私はアメリカから日本に引っ越しました。自分の住んでいる州を離れることも、国から離れることも初めての経験でした。大きな変化だったと言っても過言ではありません。オリエンテーションの混乱や時差ぼけ、アパートへ引っ越す際の言葉の壁など、日本に来てから沢山苦労しました。文化が違うことは予想していましたが、実際にこんなに違うとは思いませんでした。私が好きなことのひとつに、日本にまつわる歴史があります。森の中でお寺や神社を見つけたり、琵琶湖で島が生まれたという民話を聞いたり。新しいものと古いものが日常生活に溶け込んでいる様子は、とても興味深いです。日本の食文化も全く違います。日本料理はもっと野菜が中心で、お肉が少ないと思っていましたが。日本の職場のシステムはアメリカの職場とあまりにも違うため、苦労したこともあります。言葉は文化に非常に深く関わっています。だからこそ、日本語を学ぶことは日本の文化や人々に溶け込むために不可欠なことだと思います。まだまだ勉強中ではありますが、もっと日本語がうまくなりたいと思っていますし、生徒たちの英語力向上のサポートもしたいと思っています。

Discovering Shiga

Laura Steavenson, Maibara City Maibara Elementary School

I was cautious when I learned of my placement in Maibara, Shiga, last year. I had never heard of Shiga and was surprised when my Japanese instructor raved about the prefecture's beauty and prime location.

Twelve months later, I can say he was right to rave.

In my first year, I have focused my energy on exploring locally. Though not far from large cities with cultural attractions, Shiga is calm.

Farmlands, mountains, lakes, and towns blend outside the JR train windows. These snippets of Japan inspire my travels. Kusatsu was a place to change trains, but now it's a regular stop when I attend its farmer's market. I've talked with local farmers and eaten the food they grow. I've swam in the lake's clear water at Omimaiko, biked along the base of Shiga's mountains, and hiked up hills to find shrines hidden in the trees. It's natural to crave grounding when arriving in a new place, and the quiet rural north of Shiga quickly became the home I needed. Life here may be quiet compared to other placements, but it is also comfortable. Shiga is the hidden gem of Japan. I look forward to finding more of its surprises in the coming year.

Photo

Topic:

Life in Shiga

滋賀での生活について

滋賀を発見

スティヴェンソン ローラ（米原市立米原小学校）

昨年、滋賀県米原市での研修を知ったとき、私は慎重でした。滋賀県のことは聞いたことがなかったので、私の日本のインストラクターが滋賀県の美しさや最高の立地を絶賛していたときには驚きました。12か月後の今、彼の絶賛は正しかったと言えます。

1年目は、地元を探索することに力を注いでいました。滋賀県は、文化的な魅力のある大都市からそれほど遠くありませんが、落ち着いたところです。JRの車窓の外には、農地、山、湖、町が溶け合っています。日本のこうした断片が、私の旅のインスピレーションになっています。草津は、以前は電車の乗り換え場所でしたが、今では農産物直売所に行くときに定期的に立ち寄る場所です。地元の農家の方々と話し、彼らが育てた食べ物を食べました。近江舞子の湖の澄んだ水で泳いだり、滋賀の山の麓を自転車で走ったり、木々に隠れた神社を見つけるために丘を登ったりしました。新しい場所にやって来たら、心が安らぐ場所にしたいと思うのは自然なことです。滋賀県北部の閑静な田舎は、すぐに私にとって必要なホームとなりました。ここでの生活は他の場所に比べると穏やかかもしれませんが、快適でもあります。滋賀県は日本の隠れた宝石です。来年も、滋賀県でさらなる驚きを見つけられることを楽しみにしています。

Lake Biwa

, Imazu Junior High School

Lake Biwa. The largest lake in Japan. Before I moved to Shiga, Lake Biwa was the only thing I knew about it. Lake Biwa has inspired artists and storytellers for years, yet I learned about Lake Biwa through Pokémon Gold and Silver. In those games, an angry red Gyarados rages in the waters of the lake until it is calmed down by the player.

Photo

Now, I can't say I ever saw a raging monster defending the lake, but I can easily understand why it would. Spending almost every morning walking around its shores and watching the sunrise over the waters is always calming. Even in winter, when waves crash sheets of ice into the shore has its own unique beauty. Lake Biwa and its natural beauty have been a constant in my life in Shiga. It will be the thing I miss most about my life in Shiga.

Topic:

Life in Shiga

滋賀での生活

琵琶湖

(高島市立今津中学校)

琵琶湖。日本最大の湖。滋賀に引っ越す前は、琵琶湖しか知りませんでした。琵琶湖は長年、芸術家や物語の語り手たちにインスピレーションを与えてきましたが、私が琵琶湖について知ったのはポケモンゴールドとシルバーを通してでした。これらのゲームでは、怒った赤いギャラドスが湖の中で暴れ回り、プレイヤーがそれを鎮めます。

現実、私は湖を守るために暴れ回るモンスターを見たことはありませんが、なぜそうするのかは簡単に理解できます。ほぼ毎朝、湖岸を歩き、湖から昇る日の出を眺めていると、心が落ち着きます。冬でも、波が氷の層を岸に打ち寄せる時、独特の美しさがあります。琵琶湖とその自然の美しさは、滋賀での私の生活の中で常に存在していました。滋賀での生活で一番恋しいものになるでしょう。

Life's Relay: my reflection as a timekeeper

Na-Kaydia Webb, Ado Elementary School

This year, I was honored to be the timekeeper at Ado Elementary's sports day. Some of the school's athletic competitions included the 50-meter race, the "tornado," the "ball toss game," and the day's biggest event—the relays. Upon reflection, the entire day seemed like a summary of my time spent at both Ado and Aoyagi Elementary. Year one—the "tornado" year. It required significant readjustments, but the board of education, my co-workers, and members of the expat community were always there to lend a hand. Year two and three were my "ball toss" years, as I was now more accustomed to my life in Shiga and my work environment, and I had a great time "throwing" around ideas for English classes.

Year four was my '50-meter' dash. It went by too soon! I cooked Jamaican curry chicken for my coworkers, we had "brush up" classes where we did fun English activities to help improve their English, and we launched "Eigo Radio," a short English listening program done with my co-workers for the students. I even did volunteer English teaching at the Imazu Community Center. Alas, year five—my 'relay' year. I have run this race to the best of my ability, and now it's time to pass the baton to the next runner ahead of me. It's a bittersweet moment, but the race must continue. I'll never forget the memories I made at both schools and the time I spent with my students and co-workers. As I pass on the baton, I hope that, in the eyes of people around me, I ran my race well.



Topic:

Teaching English

授業実践について

人生のリレー:タイムキーパーとして振り返って

ナケイディア ウェブ (高島市立安曇小学校)

私は今年、安曇小学校の運動会でタイムキーパーを務めた。運動会には、50メートル競走、トルネード、玉入れ、そして最大のイベントであるリレーがあった。今思えば、この日の一日を振り返ることは、私が安曇小学校と青柳小学校で過ごした時間の総まとめしたような一日だった。1年目は「トルネード」の年だった。大幅な再調整が必要だったが、教育委員会、両校の先生方、そして外国人コミュニティのメンバーがいつも手を差し伸べてくれた。2年目と3年目は、滋賀での生活や職場環境にも慣れ、英語の授業のためのアイデアを「投げかけて」素晴らしい時間を過ごした。

4年目は「50メートル」ダッシュだった。4年目はあっという間に過ぎてしまった！同僚のためにジャマイカ風カレーチキンを作ったり、英語力向上を助ける楽しい英語アクティビティを行う「ブラッシュアップ」クラスを設けたり、子どもたちのために同僚と短時間の英語リスニング番組「英語ラジオ」を立ち上げたりした。今津公民館ではボランティアで英語を教えたこともある。悲しいかな5年目、私の「リレー」の年だ。私はこのレースを精一杯走ってきた。そして今、次のランナーにバトンを渡す時が来た。ほろ苦い瞬間だが、レースは続けなければならない。両方の学校で作った思い出も、子どもや同僚と過ごした時間も、決して忘れることはない。バトンを渡す時、周りの人たちの目には、私のレースがうまくいったと映っていることを願っている。